

第7分科会
家族と家庭生活 I
会場 蕪崎市立蕪崎東中学校

川崎市立宮崎中学校 教諭 水谷章子

会場である蕪崎東中学校は甲府盆地の北西に位置し、豊かな自然に恵まれた場所にあり、平成12年度に改築した木の暖かみと日の明るさが感じられる学舎であった。第7分科会は「幼児とふれあいクッキング」という題材で、1度交流のある保育園児を学校に招待し、一緒にお菓子を作り、ふれあいを深めるという授業展開であった。前時の授業で「私の課題」の確認やこんな場面ではこうしようと言った具体的なロールプレイングをして「達成の予感」を持たせ、本時の授業で生徒同士の良いところを引き出し学んでいく「学びの共有」から生きる力を育てるという考え方であり、生徒たちは落ち着いて生き生きと授業に臨んでいた。

長野県からは「相手(幼児)意識」をして、幼児の疑似体験後に幼児を迎えた授業提案で、2度目の交流として中学校に招待し、広い体育館で手作りおもちゃで幼児と一緒に遊びを通してふれあうというものであった。また、茨城県からはやはり2度目の訪問で生徒の思考に深まりが見られたという事をN2法シートという評価方法から分析していた。

研究協議では2回の保育園との交流の意義など活発な意見交換がなされた。指導講評では①実践的体験的な学習活動を取り入れる②問題解決学習③学習指導と評価の一体化についてお話があった。生徒に持たせた学習意欲を持続させ、どう解決させていくか、考えさせられた。



第8分科会
教育課程
会場 甲府市立富竹中学校

南足柄市立岡本中学校 教諭 田代俊浩

甲府市の県立美術館の裏手に位置し、畑に囲まれ環境に恵まれた甲府市立富竹中学校は校舎も立派であるが、中庭はさらに立派な日本庭園でベンチに腰掛けようものなら何時までもそこで過ごしたい気分になる。この環境のためか生徒は皆落ち着いていた。中庭から第5分科会と一緒に家庭科の授業を参観することもできた。生徒はおにぎり弁当作りに取り組み、夢中でおにぎりをにぎり、最後は写真撮影をして終了となったが、教室は生徒よりも先生が多いため、さぞ、迷惑であったことであろう。

山梨県より「感じとり、体験して、生きる力が授業づくり」をテーマに提案が午前中2本ありましたが、特に、～教育課程の問題を探る、実態と調査から～のサブテーマのもと発表された調査は調査対象が県内の教員100人だけでなく、県内企業100社、県国公立100校における各学年1クラスを対象とした生徒と保護者、と驚かされた。内容は教員の免許、履修方法、学んできて欲しい内容、調査により教師生徒、保護者、企業の本教科の学習に対する願いの一部を認識することができた。午後は「生きる力をはぐくむ技術・家庭科教育」をテーマに、茨城県、栃木県からの提案がなされました。その後、活発な協議が行われ閉会となりました。

神奈川 技 家 研 会 報

関ブロ山梨大会特集号
平成17年12月20日発行
神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会

第43回 関東甲信越地区 中学校
技術・家庭科研究大会
山梨大会



全体会：山梨県立文学館

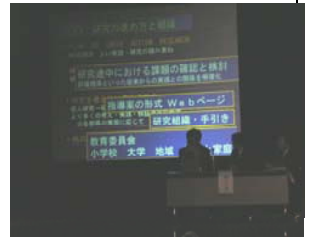
平成17年10月27(木)28(金)の2日間にわたり、「感じとり、体験して生きる力が育つ授業づくり」を研究主題として関ブロ山梨大会が開催されました。

開会式の後、山梨県ならびに埼玉県からそれぞれの研究発表がありました。

山梨県からは、【生きる力】を生徒が生活の課題に気付き、適切な解決行動を起こし、その過程と成果を振り返りながら、よりよい生活を営む力と定義し、「達成の予感」「学びの共有」という2つの柱をいかに授業の中に展開するかについて研究を進めた。「達成の予感」を生徒に持たせるため、「見通しが立つ」場を工夫したことで、やる気になる生徒の増加、「学びの共有」により集団として高め合う意識、ホームページで研究課題の共有による一体感に関する報告がありました。埼玉県は【生きる力】をはぐくむ技術・家庭科教育「生徒の学びを高め、生活する力を伸ばす学習指導の研究」をテーマに、来年度の関ブロ開催を控え参加者も多く、積極的かつ組織的に研究を進めている印象を受けました。特に「学んだ事を生活に活かす」事を重視し、家庭生活に活かすときいかに保護者を巻き込めるか、学んだ事を実践できるか等について

研究を推進中という報告があり、本発表に大きな期待を持ちました。

指導講評では、文部科学省初等中等教育局教育課程局教科調査官の上野 耕史氏より、「授業づくりは、授業経営」授業には「学びの



しかけ」(見通し、共有、段取)をつくりながら良い実践を積み重ね、成果を確認していくことが必要である。基礎的な知識・技能を徹底的に身につけそれを活用しながら自ら学び考える力などの「確かな学力」を育成することで「生きる力」を育むことができるという話がありました。

記念講演

演題：「武田信玄の治水術」

講師：秋山 敬 氏

プロフィール 前山梨県教育委員会資料編纂室

長



甲斐の国と武田信玄—治水事業を中心に—をテーマに、武田晴信(信玄)の年譜、信玄(竜王)堤の構造と竜王河原の誕生、釜無川の流路と水害についてのお話を聞くことができました。(川崎市立川崎中学校 濱田寿)



武田信玄 (甲府駅)

第1分科会
技術とものづくり
会場 甲府市立北東中学校

横浜市立田奈中学校 教諭 國井 則俊

研究主題「感じ取り、体験して、生きる力が育つ授業づくり」『エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作』

会場の甲府市立北東中学校は、武田信玄が産湯につかった要害温泉・武田神社が近くにあり、周囲には大自然が広がるすばらしい環境に恵まれた、創立49年、全校で12クラス386人の伝統ある中学校です。本分科会の副題として『エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作』を設定し、電気エネルギーを「つくる、ためる、つかう」という一連の流れを体得させることを通して生徒に理解させたいという強い教師の希望が、太陽電池・充電電池の2種類の電源を利用し、オルゴールのモータを動かす「ハイブリットオルゴール」と命名したオリジナル題材の開発に至った。公開授業については、全22時間のうち12時間目にあたる「エネルギーの発生と実験」の2/2時間目である。授業の流れは、太陽電池を利用してソーラー発電により発光ダイオードが点灯することを理解し、つぎに太陽電池をモータにつなぎ動かないという疑問点から発展し、それを動かすにはどのようにするかという実験であった。その疑問点からニッカド電池に充電するという実験を行いました。5分間という短い時間でしたが、オルゴールは動き、ソーラー発電で得られた電気により動くことが生徒たちは理解できたようでした。助言者の先生から、以前技術でやっていた電気の領域が他教科に移行され、もっと技術で電気関係を取り扱ったほうが良いと指導助言をいただき、これからの技術のあり方を考えさせられた分科会でした。



第2分科会
技術とものづくりⅡ
会場 山梨市立笛川中学校

相模原市立相原中学校 教諭 佐藤 修

恵林寺からほど近い笛川中学校は、今年3月合併により山梨市立となった。学校のある牧丘地区は、巨峰やりんご等の果樹栽培が大変盛んな所である。

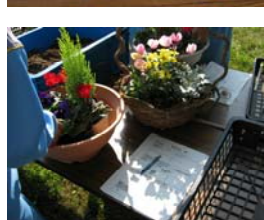
笛川中学校の栽培学習は基礎栽培（土づくり）、栽培1（時期に合った野菜づくり）、栽培2（発展学習）という3段階の学習設定をしているところに特徴がある。

「身近な環境条件の中で育てる栽培技術の獲得」のテーマのもと、栽培2（発展学習）として袋栽培、水耕栽培、寄せ植え栽培の3コースを設定し、専門家3人をGTとして活用した公開授業が行われた。

技術分野A（6）は環境条件が整わない等の理由で履修する学校は少ないが、栽培する空間や場所、農園や土地がなくても今回の発表のように、プランターや袋栽培、水耕栽培であれば、どの学校においても栽培の学習ができるのではないと思われる。

山梨県では「達成の予感」と「学びの共有」を2つの柱として取り組んでいるが、作物の特性や管理方法を知り、栽培計画を立てることで見通しが立ち「達成の予感」が高められていた。また、生徒自身が自分の題材について紹介したり、課題を示してアドバイスを受けたりするための情報を生徒間で共有できる場として、情報ボードを廊下に設置し「学びの共有」を図っていた。

「命あるもの」を育てようと熱心に取り組んでいた生徒の姿が大変印象的であった。



第3分科会
情報とコンピュータⅠ
会場 笛吹市立一宮中学校

川崎市立川崎中学校 教諭 濱田 寿

一宮中学校の周辺は、広大な果樹園の中にあり校舎、体育館などの施設も新しい学校です。

インターネットの高速回線や教室へのコンピュータ配置など、情報教育に関する環境が整備されていました。そのためか、生徒達もコンピュータの操作やインターネットを利用した学習には慣れ親しんでいるようで、授業中にコンピュータの操作に関する質問が全くなかったことに驚きました。

「自分のCMをつくらう」という題材で行われた授業では、サンプルを見ながら改善すべき点を考え、グループで話し合う。話し合った結果を発表するだけでなく、校内ネットワークに設置した掲示板に書き込みことで、「学びの共有」をしてお互いの技能や思考を高め合っている生徒達を見ることができました。一人一人が学習を進めながら気が付いたことを自分だけでなくお互いに共有することができていました。情報とコンピュータの授業では、「もっとこんなソフトがあれば」「こんな設備があれば」と思うことがよくありますが、設備が整っているとはいえ、これだけの高度な技能と思考を持った授業実践を参観できたことが嬉しかったです。



第6分科会
生活の自立と衣食住Ⅱ
会場 南アルプス市立櫛形中学校

相模原市立弥栄中学校 教諭 永井美和子

櫛形中学校は高い山の麓にあり、緑豊か行われている中学校です。

分科会のテーマは「感じとり、体験して生きる力が育つ授業づくり」で、1年生の授業が公開された。題材名は「衣服の選択と手入れ」です。綿とポリエステル の性質を6種類考え出し、更にその性質を調べるための実験方法を各班で分担して考えて、ワークシートに記入し、発表するという展開だった。

熱のこもった生徒同士のコミュニケーション活動や、学びの共有を図る発表活動に、生徒の意欲関心の深さを知ることができた。被服室には色々な繊維の標本等、繊維についての知識を増す為に掲示物が工夫され、生徒の目に訴えるように出来ていた。また地域の産業を生かして機織を体験し、できた布で作った小物が展示されていた。

サブテーマにある「衣服を大切にする態度」を育む為に、きめ細かく系統的に指導が進められていることが分かる発表だった。

